

「心身統一法」を学ぶ、今月の一冊

稲盛和夫著「心。」

～よりよく生きるための究極の極意～

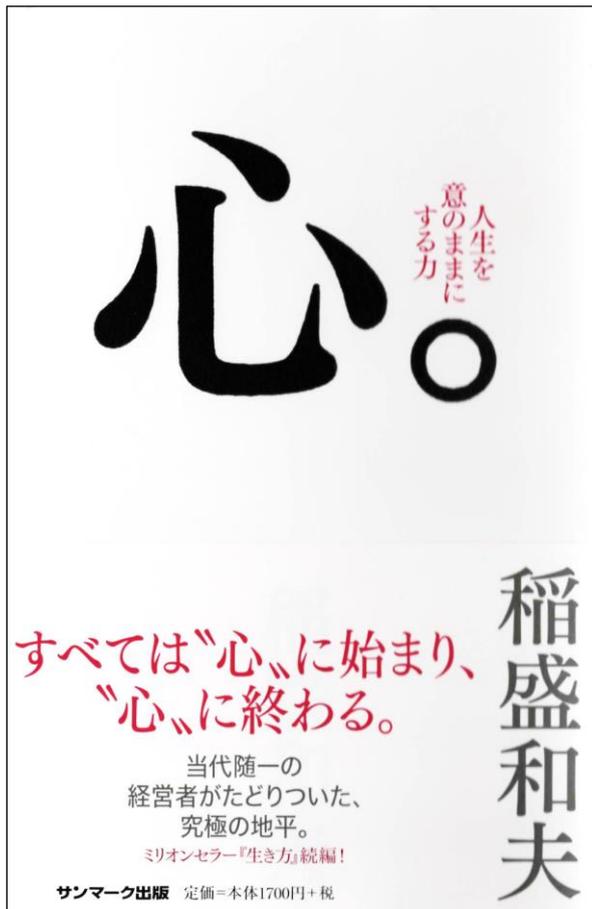
紹介者：小笠原良二 64歳 平成30年入会
会社員(構造改革室)

「すべては心に始まり、心に終わる」

これが、稲盛さんがご自身の80余年の人生を振り返ったとき、いま多くの人達に伝えたい「よりよく生きるための究極の極意」だそうです。心に何を描くのか。どんな思いを持ち、どんな姿勢で生きるのか。それこそが、人生を決めるもっとも大切なファクターであると述べられています

この本を読んで私は、これこそ天風哲学そのものだと思います。正直言って天風哲学は用語が難しく分かりづらいところがありますが、この本にはそのエッセンスが分かりやすくまとめられています。これまでの人生を振り返ると、私はいつも心に不安があり、心にどんよりとしたものを感じていました。

天風哲学を学び心の持ち方を明るく、楽しく積極的なものに変えたところ、今では仕事も家庭もそしてプライベートもとても充実しています。



(株)サンマーク出版刊 1700円+税

稲盛さんの「心に何を描くのか」「どんな思いを持ち、どんな姿勢で生きるのか」で人生が変わることを実感しています。

昨年、天風会芝原英司さんの「天風哲学を経営に活かす」をYouTubeで見ました。

28年前にお母様から引き継いだ会社は数十億円の負債を抱えていました。

芝原さんは毎朝2時間天風哲学を実践したところ事業に関するアイデアが浮かんだそうです。そのアイデアを経営に活かしたら経営がどんどん良くなり、今年2月に東証一部に上場を果たされました。

これを聴いて私は「天風哲学を実践して、いま私が勤めている会社をより良くしたい！」と心の底から思いました。そして講演の中で「天風哲学を社員にどのように伝えているか？」との質問に、芝原さんは「京セラフィロソフィは天風哲学の経営者版であり社員は毎日読み合わせている」とのお話がありました。早速、私も京セラフィロソフィを購入して読んでみました。稲盛さんがご自身の体験の中から創り出された京セラフィロソフィには仕事をする上での心構えが沢山書かれており、今では私の座右の書になっています。

この本「心。」には、稲盛さんが日本航空の会長に就任した際に、従業員に向けた次の言葉、

『新しき計画の成就是、ただ不屈不撓の一心にあり。

さらばひたむきにただ想え、気高く、強く、一筋に』が

天風さんの言葉として紹介されています。

稲盛さんは「損得ではなく人として正しいかどうか」で判断して京セラを一代で世界的な企業に育て上げました。また、「善なる動機」「利他の心」で第二電電を立ち上げ、日本航空の会長を引き受け3年で見事に再生しました。それを成し遂げた秘密がすべて書かれています。

私はこの本を読んで、64歳になって今更ですが、より良い人生を生きたい。否、より良い人生を今からでも歩んで行ける、と確信することができました。

この本には仕事、そして人生の生き方の極意が書かれていますので、一人でも多くの方々に読んで頂きたいと思います。

よりよき
人生を
送るための、
究極の極意。

人の心のもっとも深いところにある「真我」にまで到達すると、万物の根源ともいえる宇宙の心と同じところに行き着く。したがって、そこから発した「利他の心」は現実を変える力を有し、おのずとラッキーな出来事を呼び込み、成功へと導かれるのです。

・プロローグより

令和元年6月25日付けで(株)サンマーク出版から初版発行された「心」の帯裏面には左のようなメッセージが書かれています。

書店でお手にとつて、是非、ご家族で読んでみるにはいかがでしょうか。

稲盛和夫さんがどんな思いで社員にこの言葉に向けたか、「心。」のプロローグから抜粋してもう少し詳しくご紹介しましょう。プロローグ24～25ページから抜粋しました。(はまかぜ編集担当)

日本航空の会長に就任した際、私はすべての従業員に向けて、次のような言葉を紹介しました。

『新しき計画の成就是、ただ不屈不撓の一心にあり。

さらばひたむきにただ想え、気高く、強く、一筋に』

これはインドでヨガの修行をして悟りをひらき、日本でその思想と実践に基づく生き方を伝えた哲人・中村天風の言葉で、かつて成長を続けていた京セラにおいて掲げたスローガンでもあります。私はこの言葉をあらためて、日本航空の全社員に向けて紹介したのです。この中で大切なのは、「気高く」という言葉です。美しく気高い心を根幹に持っているからこそ、ひたすらに強く揺るぎのない「思い」をもつことができる。

何が何でも成し遂げるといふ強烈な思い、どんな苦境にも負けずに進もうといふ揺るぎのない意志が、事を貫徹する為には必要です。そういう思いのもと、かかわる人たちが一丸となって最大限の努力をなした時に、事は成就する。

その根幹となるものも、美しき利他の思いなのです。

何事をなそうとも、いかなる運命を歩もうとも、私たちが生きているかぎり、めざすべきものは、他によかれかしと思ひ、他のためによきことをなす「善なる心」です。それは、「真・善・美」という言葉で言い表すことのできる、純粹で美しい心といつてよいでしょう。

(そして) もっと深い“心”は宇宙へと通じる と、稲盛さんはつなげています。

あとはご自分でお読みください。